

平成 27 年度 森林総合研究所営事業 事後評価 技術検討会
農用地総合整備事業「泉州東部区域」 議事概要

1. 実施日 平成 27 年 7 月 13 日(月) 16:00~17:55
2. 場 所 農林水産省 農村振興局第 2 会議室
3. 出席者 技術検討会委員 浅野 耕太 京都大学大学院教授
安藤 光義 東京大学大学院准教授
飯田 俊彰 東京大学大学院准教授
久保 充己 農事組合法人いずみの里 6 次産業化担当、
大阪府「農の匠」の会 副会長
(敬称略、五十音順)
事務局等 農林水産省農村振興局整備部農地資源課調査官 他
国立研究開発法人森林総合研究所森林整備センター
農用地業務室長 他

4. 技術検討会の概要

- (1) 委員長の選出
浅野委員を選出した。
- (2) 「関係団体の意見」の報告及び「事後評価書(案)」について
事務局より説明を受け、質疑し了承した。
- (3) 意見・指摘等
技術検討会の意見として、次のとおり取りまとめた。

本事業により実施された農用地整備や農業用道路は、農業生産の安定化、高付加価値型農業の確立に寄与し、地域の活性化に資するものと評価できる。

(農用地整備)

区画整理により規模拡大と農地集積が進み、法人化を目指す大規模経営体が現れ、仲卸業者に対しても強い交渉力を持ちうるような状況を生み出したことは画期的である。

水稻の裏作で露地野菜(たまねぎ、キャベツ)を大規模に栽培し、ブランド化・6次産業化に積極的に取り組む農家の存在は、他の担い手農家のみならず地域の若者にも良い影響を与えるものとなっている。

山間部に造成された団地においては、いちご狩りのできる観光農園や区画貸しの市民農園が整備され、遠方から多くの利用者が訪れるとともに、新たな雇用が生ま

れている。また、耕作道や農業用水の供給施設が適切に整備されており、農作業が効率的に行われている。

(農業用道路)

地域において、海岸沿いの都市部では道路網が充実しているものの、山間部においては基幹的道路網の整備が遅れており、本事業で整備された農業用道路により、都市農村交流が活発に行いうる基盤が整ったといえる。

将来的には南河内地域から泉州地域に至る基幹的農道網の完成により、一層の経済効果の発現が期待できる。

道路の整備により、豊かな自然がより身近なものとなり、都市部の住民に対して、泉州地域の新しいライフスタイルを提案しうる可能性も見出された。

さらに、近隣の直売所において地域の特産品（泉州水なす・泉州たまねぎ等）の販売が増加し、地域の市町を含めた地産地消が促進され、新たな経済活動が誘発されている点は高く評価できる。

加えて、南海トラフ巨大地震等の災害が懸念される中で、地域の山側を走る農業用道路は、地域住民の避難路や支援物資の輸送路として、地域の安全確保にも貢献すると考えられる。

(事業効果のより一層の発現に向けて)

- ① 本地域は、大消費地（大阪）に近く、周辺人口の増加も見られており、今後多くの人を呼び込む潜在力を有している。

その実現には、観光や農業体験に関して誰がどのようなニーズを持っているのか適切に把握し、それをうまくマッチングさせること、食育も含めて親子や複数世代が楽しみながらできる新たな農業との関わり方を見出していくことが必要であると考えられる。

- ② 本地域の魅力を積極的に発信することにより、他地域からの定住者や新規就農者の拡大が期待される。

- ③ 本地域は、関西国際空港の玄関口に位置し、海外からの観光客も農産物販売や農業体験の貴重な顧客になると考えられ、そのインバウンド効果が今後ますます見込まれる。

そこで旅行代理店やJA等の関係機関との協力を深めることと同時に、海外からの観光客に泉州地域の農産物の良さを知ってもらい、消費につなげることが重要である。

(以上)